（別紙4）　　平成　24　年度

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2970500795		
法 人 名	有限会社　夢野家		
事 業 所 名	グループホーム　夢野家Ⅱ		
所 在 地	奈良県橿原市東坊城町197番3		
自己評価作成日	平成25年11月20日	評価結果市町村受理日	

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　Nネット
所 在 地	奈良市登大路町36番地　大和ビル3階
訪問調査日	平成25年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

畳や欄間、障子など馴染みのある昔ながらの暮らしをしていただける民家改修型のグループホームです。座り込んだり、寝転んだり、這って移動したりと『靴を脱いだ暮らし』の良さを発揮していただけます。広い庭には、木々や草花がたくさんあり、四季を感じながら過ごしていただけます。映画や自然観賞などの外出や外食の機会を多く持つようにしています。すぐ隣にスーパーがあるため散歩がてら買い物にも気軽に出掛けています。また、重度の方でもできるだけ布パンツにパッドで対応しており、トイレでの排泄を大切にしています。旬の自家製野菜を中心に調理しており、季節感あふれた献立となっています。普通食が難しい方には、その方の食べやすい状態を考慮し、工夫して提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

近鉄大阪線坊城駅の近くにある純和風のホームである。建物は、木造で中庭を囲んで居室や回り廊下がある。広い庭には、柿や八朔、大きな桜の木があり、季節には花をめでながらバーベキューや餅つきを楽しんでいる。職員は高齢化している利用者が、自由にしたいときにしたい事ができるようにと日々話し合い、季節の遠出や鑑賞会、外食など外出の機会をいろいろ工夫し、利用者はおしゃれして出かけている。また、自家栽培の野菜を中心にした手作りのおいしい食事を楽しんでいる。職員の定着もよく利用者を家族のように思い接しているホームである。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。

自己	外部	項　　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「そのままのあなたでいい」、「老いる自由を楽しみましょう」をホーム理念として掲げ、利用者には尊敬と共感を持って関わっています。笑顔の絶えない地域に愛されるグループホーム作りが当ホームの願いです。	職員は、理念の実践に向けて「本人の出来る事の継続」を大切に考え見守りに力を入れながら、利用者が今の持てる力を出していただけるような場面作りに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、敬老会や夏祭りなどで地域の方と交流を持つようにしています。近隣の方から花や野菜をいただいたり、散歩や買い物の時に声をかけていただくなど顔見知りの関係です。下水道工事の話し合いを当ホームで開くなどして、近所の方との交流を積極的に行っています。	校区の夏祭りに参加したり、近くのスーパーによく出かけているので近隣の方と顔見知りになっている。ウクレレや歌のボランティアも受け入れている。ホームを近隣の話し合いの場として提供している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では地域の高齢者の暮らしについて話し合っています。見学や電話で地域の方から相談を受ける機会があり、福祉サービスの利用や認知症ケアについて助言を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度行っています。民生委員や市職員などから地域の情報を得たり、ホームの活動や現状について話したり、火災や事故など時事ネタについても話し合っています。会議で出された意見や助言をホーム運営に活かしています。	運営推進会議は年6回、行政、民生委員、介護相談員、家族、利用者が参加して開催されている。介護相談員からの「ホームは日本家屋なので寒いのでは」という意見から隙間風の防止や床の敷物を厚くするなど保温の工夫をした。また、着るものの調節をこまめにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市は実地指導や運営推進会議などで何度もホームに足を運んでおり、ホームの雰囲気やサービスの実情について知っています。また、市の介護相談員が月に一回訪れており、運営推進会議にも参加されています。	市の介護相談員を受け入れ、利用者の思いを聞いてもらったり、運営推進会議にも出席してもらい意見を聞いている。市の実地指導や運営推進会議に参加と協力関係を築くチャンスも多くありホームの実情について報告し相談している。更なる密な協力関係を築かれることを期待する。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を年1回以上行っています。重度の方に対しては安全確保と身体拘束の線引が難しく、日頃から職員と話し合って共通理解を促し、全ての職員が身体拘束を行わないケアを実践しています。日中、玄関は解錠し、センサーにて職員が対応しています。	精神的にも身体的にも拘束をしないケアを実践するべく勉強会を開き確認している。骨折した利用者に、家族が望む動かしてはいけない保存療法を実践するため見守りを強化し、本人のストレス軽減のため散歩を増やすなどした。また職員のストレスにも気を配り、ベルトなどを使用しないケアで快方に繋げた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の勉強会を年1回以上行い、虐待について話し合っています。管理者や代表者は普段から職員のストレス防止を心がけ、シフトの調整や何でも相談できる雰囲気作りを心掛けています。		

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者には成年後見制度を利用している方がおられます。管理者は成年後見制度活用講座を受講して理解を深め、制度の活用を支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	契約および改定時に重要事項説明書をもとにサービス内容をわかりやすく説明しています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族と信頼関係を結ぶよう取り組み、意見を出しやすい雰囲気作りを心掛けており、家族からの意見や要望は多く寄せられています。代表者や職員で検討し、ホーム運営に反映させています。	家族からの相談、苦情は要望ノートに書き留め話し合っている。建築に詳しい家族から白蟻の形跡ありとの申し出でがあり白蟻駆除に繋がった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者や管理者は職員と日常的に顔を合わせており、普段から意見や提案を聞く機会があります。相談を持ちかけたり、意見を求めることで、何でも言い合える関係を築いています。	2か月に1回オーナーも参加する会議があり意見を聞いている。利用者の転倒に繋がるとの職員の意見から椅子を肘付き型に変更したり、洗濯物をかける場所を工夫して室内の乾燥を防ぐのに役立った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境･条件の整備に努めている	子育て中や家族の介護中の職員も働きやすい職場を目標に、日々取り組んでいます。離職率は低く、3年以上勤務者が9割を超えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修を7割以上の職員が受講しています。また、定期的に社内勉強会を開き、スキルアップに努めています。資格取得の際には、シフトの配慮と、講習会や模擬テスト受講支援を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとは合同での行事を多く設け、職員同士の交流を促し、サービスの振り返りと質の向上に役立てています。近隣のグループホームとは連絡を取り合い、相談にも乗っていただいています。		

自己	外部	項　　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時は日中の職員を増やして対応しています。利用者の不安を軽減できるよう会話を重ね、信頼していただけるような関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯を家族から丁寧に伺い、入居する事への罪悪感を最小限にできるよう、意向や希望を伺っています。また、連絡を密にとることで共に利用者を支える関係作りを築くよう心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期相談時に当ホームが満室で利用していただけないとき、もしくは、当ホームの利用に該当しないと見極めたときには、必要なサービスや相談先を紹介しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	重度になられても利用者は共に過ごし、信頼関係を築いてきた「家族」であり、利用者の笑顔や感謝の言葉は職員の喜びです。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の変調時には家族に報告し、常に状況を共有するようにしています。また、共に利用者を支え合える関係を継続するため、対話の時間を多く持つよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の家族や友人の来訪時には、自宅のように居心地よく過ごして頂けるよう努めています。来訪は頻繁で、必ずお茶を出すようにしております。お孫様一家来訪時にフルーツも一緒にお出ししたところ、お孫様に食べさせてもらい利用者の方はとても喜ばれていました。	遠くに住む親戚や家族と来訪者が多くある。お誕生日に家族と外出されたり、近くにいる妹に面会に出かけている。歯科受診や整体に家族が付き添っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者は日中のほとんどを居間で過ごしています。利用者同士の相性を把握し、居間や食卓での座る位置に配慮しています。隣に座っている利用者に自分のひざ掛けを掛けてあげるなど、利用者同士の関わりが普段から見られ、職員からは感謝の声掛けを心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族や利用者への継続的な連絡をとるように心掛けています。相談や支援を重ね、退所1年半後に再入所していただいた利用者もおられます。		

自己	外部	項　　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居期間の長い利用者が多く、好みも希望も概ね把握できています。重度の方でもちょっとした仕草や表情から読み取るようにしています。意思疎通が全く出来ない方ですが、お茶が嫌いと仕草で判明、好きなジュースを提供することで本人の笑顔を引き出すよう努めています。	自由にしたいときにしたい事が出来るよう24時間アセスメントをとり情報を得て利用者の意向の把握に努めている。困難な場合は、職員の意見や、利用者の反応を重視している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に家族やケアマネから生活歴や生活環境について伺い、これまでの暮らしについて把握するようにしています。また、入居後にも利用者や家族との会話から把握できることは多く、職員間で共有するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりに合う過ごし方をしていただくため、記録や引き継ぎを元に、日々の心身の状態を常に気に留め、できるだけ今までの生活を継続できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思い、ミーティングで出された職員の気付きを反映して目標を設定しています。介護計画は職員間で共有し、実施記録を元にモニタリングを行い、6ヶ月～12ヶ月を目処に見直しをしています。	、1か月に1度夜勤専任の職員も交えカンファレンスを行い介護計画書は6か月から1年で見直している。	介護計画書は、ADLに関することが充実しているが、思いや好きなことも計画に盛り込み笑顔が増える具体的な計画作りを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践･結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタルや食事量、水分量、一日の様子、職員や家族の気づきなどを個別に記録し、情報共有や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	役所への手続きの同行や、通院の付き添い、近所のデイに通う妹への面会など、一人ひとりに合わせた外出支援を行っています。衣類の補充を家族に代わって担い、ボタン付けやズボンの裾上げもさせていただいています。		

自己	外部	項　　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出時には道行く方に助けていただくことがよくあります。急なスロープを登るため車椅子を一緒に押してくださったり、利用者を見守って下さったり。敬老会には町内のご婦人方と一緒に行き、駐車場から会場まで車椅子を押していただきました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に利用者と家族から医療機関の希望を確認し、かかりつけ医を決めています。個々の利用者に応じて職員同行で受診し、診察結果を家族に報告しています。歯科医の往診や、協力医の緊急時の対応も可能です。	緊急時対応や看取りの対応などに2ヶ所の医療機関の協力を得て、24時間相談が出来る体制を築いている。入居前の主治医にかかることもできるが、現在は職員の付き添いにより内科の協力医療機関で1～2ヶ月に1回受診している。希望により往診も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員が受診時には付き添うため、日常の様子や気づきを看護師に伝えて相談し、助言を得ています。また、系列の看護職員には随時相談でき、医療的な指示、助言を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は何度も様子伺いに行き、医療機関とも話し合いを重ね、早期に退院できるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りまで行うことを家族に説明し、終末期に対する意向を伺います。実際に直面したときには再度、意向を確認しています。医師や家族と繰り返し話し合いの場を持ち、家族の要望に添えるようできる限りの協力をさせていただきます。	「ホームは終の棲家」と考えており職員採用時にも方針を説明し理解を得ている。看取りの指針を作成し入居時利用者、家族の意向を聞き、利用者にはレクリェーションを利用したり会話の中からその時の思いを繰り返し確認している。過去に3名の看取りを経験した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	赤十字の救急法を受講し、社内勉強会にて応急手当や初期対応について共有しています。夜間の急変や事故発生時には近くに住む職員による応援体制も整えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定での避難訓練を毎年行っています。地域の消防署主催のグループホーム向けの防火研修会に職員が参加し、消火方法や避難方法について勉強してきました。また、電気器具のメンテナンスを行い、年数が経過した電気器具は取り替えるようにしています。	消防署の協力を得て全員参加の避難訓練を行った。防火研修会に夜間勤務者を中心に参加した。訓練や、研修から初期消火や日頃のイメージトレーニングの重要性を確認し職員全員で今後に活かそうとしている。米、飲料水などの備蓄もある。	災害に備え近隣や自治会への協力依頼をさらにすすめ協力体制を固めるとともに、家族と避難場所や災害時の連絡方法を定め、互いに周知されることが望まれる。

自己	外部	項　　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保は一番大切にしている部分です。排泄の失敗時にもさり気なくフォローするように努めています。しかし、利用者が重度化していることもあり、慣れ慣れしい言葉がけが減りません。職員には自身の言葉かけを振り返るよう自己覚知を促しています。	トイレ誘導時や食事中の声掛けも優しく利用者それぞれの方を尊重しながら的確にケアしている。馴れ馴れしい言葉使いを減らすよう職員は、「ご家族がそばにいらっしゃるよう接しよう」と確認し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	重度化に伴い選択することが難しくなられていますが、飲み物や散歩に出かけた際の行き場所など、自己決定の機会を作るようにしています。又、ちょっとしたしぐさや表情で思いを読み取るよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴、起床、就寝など、一人ひとりのペースに合わせた支援を行っています。食事中に居眠りされる方は時間を遅らせて提供する。まだ寝ていたいとおっしゃる方は起床を遅めにする。ゆったりと湯船に浸かっていたい方には入浴時間を長めに設定する、など。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容によるカットを二ヶ月に一度利用していただいています。毎日、整髪や洗面の支援を行い、身だしなみを整え、おしゃれに過ごしていただいています。市主催の敬老会にはお化粧をし、ブローチなどの装飾品を身につけて参加してきました。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	自家製の野菜中心の食材で、職員が利用者の希望を聞いて調理しています。豆剥きなど簡単な下拵えを職員と一緒に行う利用者もいます。職員は同じ食事をいただきながら介助を行います。月に1回以上、レストランなどでの外食の機会を設けており、利用者は楽しみにされています。	自家栽培の野菜を中心に利用者の希望も聞きながらすべて手作りで調理されている。庭の大きな桜の木の下でのバーベキューや手作り弁当持参のドライブ、洋食の希望が多い外食も楽しみにしている。正月のお節料理は、特に張り切られ作り方や、いわれを教綬されるなど利用者が活躍されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量と食事量は毎日記録しています。旬の自家製野菜中心の料理で、見た目も大切にしています。嚥下、咀嚼状況に応じた食事を提供したり、異物に対して混乱が多い方には無地の食器や混乱を招く食材を除くなど臨機応変に対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを支援しています。特に歯周病の方には歯間ブラシでの仕上げ磨きを行っており、症状の緩和に繋がっています。		

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	『脱おむつ』に取り組んでおり、重度の方でも布パンツにパッドで対応するように努めています。排泄チェックシートでパターンを把握し、日中はトイレで排泄できるよう支援しています。尿量が多く、パッド内で収まらない方には両面吸収シートを使用することで、失敗の軽減に繋げています。	昼間は、排泄パターンによるトイレ誘導とパットや両面吸収シートを利用することで布パンツで対応している。夏には、蒸れやゴムかぶれもなく快適に過ごせた。また、利用者の習慣を把握しポータブルトイレの設置場所を工夫し失敗を減らすことが出来た。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	旬の自家製野菜中心の料理のため、酷い便秘の方が緩和傾向になられています。腹部マッサージを行ったり、便秘解消効果のある飲食物を勧めたりと、普段から便秘の予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は毎日14～16時に設け、利用者は概ね3日に一度入浴しています。利用者の希望により翌日にしたり、午前中にすることも可能です。拒否の強い方には相性の良い職員で対応したり、その方のタイミングに合わせることで気持よい入浴を提供しています。	1日に2名の方がゆっくり入浴している。利用者の好みや状態に合わせ湯温を調整したり、季節によりシャワー浴にしたりと個々に合わせている。冬至には、柚子湯を楽しむ予定である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない程度に日中も眠い時には眠っていただいています。照明などで休息をとりやすい環境を整えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が一人ひとりの薬の用法、副作用などについて、いつでも確認できるようファイルしています。投薬変更時には引継書にて用法用量の情報を共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の下ごしらえや洗濯畳みなどを職員と一緒に行い、感謝の気持ちを伝えてやりがいを持っていただくように心掛けています。知識や教養で能力を発揮してくださる方もいます。散歩や外出は一番の気分転換となり、とても楽しみにしてくださっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩が好きな方が多く、天気の良い日には散歩を楽しんでいます。月に一回以上は外出の機会を設け、植物鑑賞や映画鑑賞を楽しみ、レストランなどで外食しています。歩行可能な2名の利用者を伊勢一泊旅行にお連れしました。1名の方の出身地で、なかなか会えない娘様と旅館で対面することができ、家族様は大変喜ばれました。	日々の散歩、霊山寺のバラ園、賀名生梅林など季節のお出かけや法人合同の伊勢旅行、映画鑑賞、レストランでの外食など外出の機会を多く持つよう考え実行している。職員はそれぞれの利用者の希望を叶えられるよう日々話し合っている。	

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を所持されている方はおられません。以前、お金をご自分で管理されている方がおられたときには、一緒に銀行に行ったり、受診や買い物の支援をさせていただきました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話は自由に使用でき、使用時には職員が番号を掛けるなど、その方に合った支援を行いますが、現在使用される方はおられません。年賀状や手紙は宛名を代筆するなどの支援をし、大切な方との関係継続を支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改修型のため、自宅にいるかのような生活感があります。広い庭には柿や八朔などの実のなる木がたくさんあり、木々や草花、収穫を通じて四季を感じながら過ごしていただいてます。	純和風の日本家屋で夏は、涼しい。冬は寒さに注意し、天気の良い日には、日当たりのよい南側のサンルームで過ごすことが多い。大きなリビングに台所が併設されており、料理中の匂いや調理の音が耳に入ってくる。利用者はテーブル席やソファーが配置された思いの場所で寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は居間の他にも、ウッドデッキやサンルームなどがあり自由に過ごすことができます。一人で日光浴をされたり、仲の良い利用者同士が楽しくおしゃべりされている姿が見られます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた鏡台を置いたり、人形や写真を飾るなど、自由に使っておられます。本好きの方にはスタンドと本棚、字を書かれる方には机を用意するなど、居心地の良い空間作りを心掛けています。	居室は、畳敷きでホームが用意したベッドが置かれている。利用者の持ち込んだチェストには家族の写真が飾られすっきりと片付いた部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室、お風呂場など、利用者が間違えやすい場所には案内表示を置いています。共用の歯磨剤と美容液には見やすく表示して誤使用を防ぐなど、自分でできることを維持する工夫を行っています。		